

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-540	20-046	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名（原題／訳） Projected prevalence and mortality associated with alcohol-related liver disease in the USA, 2019-40: a modelling study 米国におけるアルコール関連肝疾患 2019年から2040年の有病率と死亡率：モデル化研究		
執筆者 Julien J, Ayer T, Bethea ED, Tapper EB, Chhatwal J.		
掲載誌 Lancet Public Health. 2020 Jun;5(6):e316-e323. doi: 10.1016/S2468-2667(20)30062-1.		
キーワード	PMID	
アルコール、肝臓、肝硬変、肝移植、モデル化研究	32504584	
要 旨 目的： 米国ではアルコール関連肝疾患は肝移植の主原因疾患で、アルコール関連肝疾患による死亡数がハイリスク飲酒の高まりにより増加し続けている。米国におけるアルコール関連肝硬変と死亡の傾向を2040年まで予測し、飲酒量変化の潜在的な影響を評価した。 方法： 1900-2016年に米国で生まれた人の2040年までのハイリスク飲酒（過去12か月に毎週推奨量以上の飲酒）とアルコール関連肝疾患のマルチコホート状態遷移モデル（Markovモデル）を開発した。アルコールおよび関連障害全米疫学調査、米国立アルコール乱用・依存症研究所、米国の国民死亡指数、人口動態統計、複数の公表論文のデータを解析した。現状維持、中程度介入（ハイリスク飲酒の傾向が2001年のレベルまで減少）、強度介入（ハイリスク飲酒の傾向が年間3-5%減少）の3つを想定した。2005-2018年におけるアルコール関連肝疾患死傾向からのモデルを用い、2019-2040年におけるアルコール関連肝疾患死（主要アウトカム）を予測した。 結果： 現状維持では、アルコール関連肝疾患年齢標準化死亡率は2019-2040年で100,000人年あたり8.23から15.20に増加、2019-2040年にアルコール関連肝疾患死亡者は1,003,400人、障害調整生存年（DALY）は1,128,400と予測された。中程度介入では、年齢標準化死亡率は14.49/100,000人年増加、アルコール関連肝疾患死亡者968,100人となり、現状維持より35,300人少なかった。強度介入では、年齢標準化死亡率は2024年に8.65/100,000人年と最高値となり2040年に7.60/100,000人年へと減少、アルコール関連肝疾患死亡者704,300人と予測され、現状維持より299,100人少なかった。 結論： 米国におけるアルコール関連肝疾患による死亡率と疾病率を減少させるために、飲酒文化やハイリスク飲酒に対する積極的介入を含めて今後さらなる介入が緊急に必要だ。		